

**1. 建物概要**

建物名称 **笠間発條(株)工場建築工事**

BEE **1.1**

BEEランク

**B+**

★★★

**2. 重点項目への取組み度**

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	<b>3.8</b>	/5	
"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)	<b>2.9</b>	/5	
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	<b>2.4</b>	/5	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	<b>2.7</b>	/5	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

**3. 重点項目についての環境配慮概要**

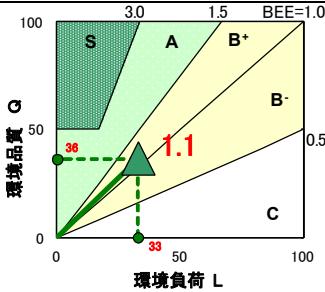
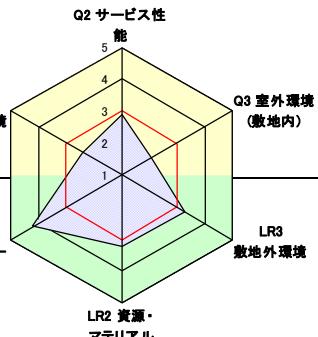
各項目についての環境配慮概要	内訳対応項目	
	得点	評価
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>	<b>3.8</b>	
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給水BVステンレス鋼管(C)、排水VP(B)、給湯ステンレス鋼管©	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 星光利用設備 星光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要な内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。	Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥	生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑨[BElm]=0.59。	LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩	建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 モニタリング 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマなどに加えて、省水型機器などを用いている。 ⑫LGS使用している。 ⑬発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	LR-2 1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	節水 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 材料使用量の削減 既存建築躯体等の継続使用 躯体材料におけるリサイクル材の使用 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 持続可能な森林から産出された木材 部材の再利用可能性向上への取組み 有害物質を含まない材料の使用 消火剤 断熱材 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑯LCCO2排出率:81%。	LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	地球温暖化への配慮 温熱環境悪化の改善
<b>"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)</b>	<b>2.9</b>	
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	耐震性 免震・制振性能 空調・換気設備 給排水・衛生設備 電気設備 機械・配管支持方法 通信・情報設備
<b>"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>	<b>2.4</b>	
■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑯階高:3.7m以上。 ⑯[壁長さ比率]<0.1。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯⑯ 3 3.1 3.1.1 ⑯ 3.1.2 ⑯	ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 特になし。	Q-3 3 3.1 ⑲	地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>	<b>2.7</b>	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑯まちなみ・景観への配慮/⑯敷地内温熱環境の向上) 特になし。	Q-3 1 ⑤ 2 ⑯ 3 3.2 ⑥	生物環境の保全と創出 まちなみ景観への配慮 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑰持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし。	LR-2 2 2.5 ⑰ LR-3 2 2.2 ⑮	持続可能な森林から産出された木材 温熱環境悪化の改善

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

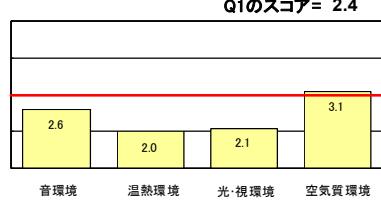
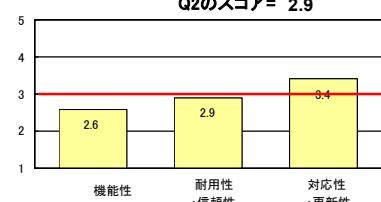
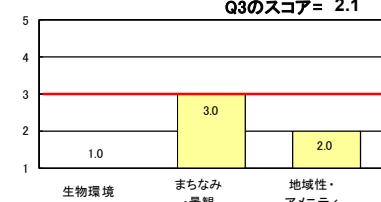
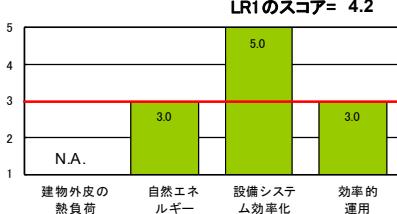
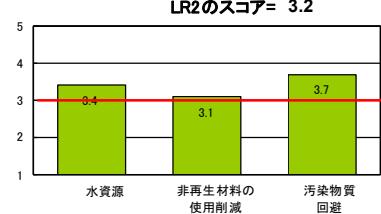
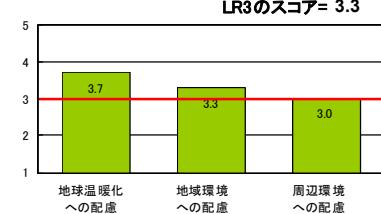
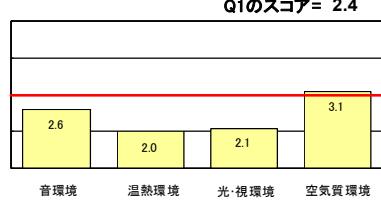
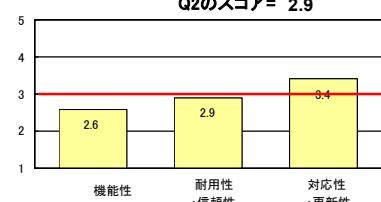
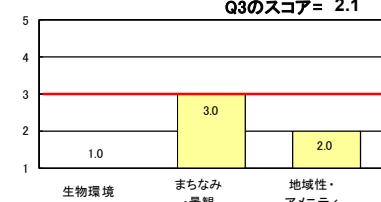
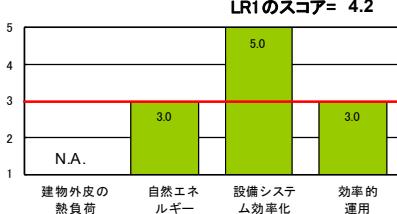
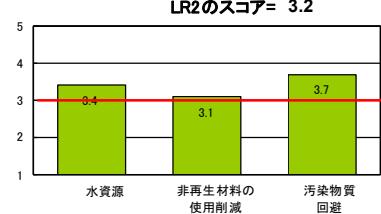
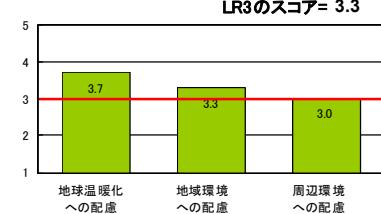
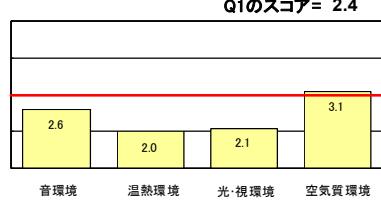
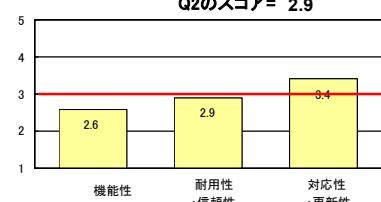
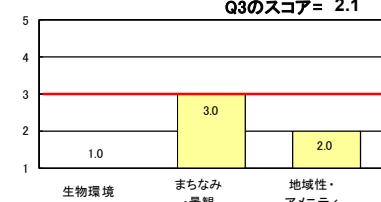
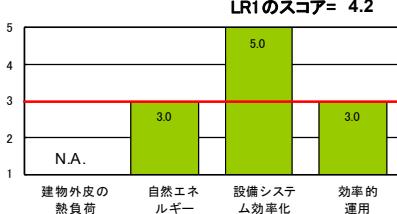
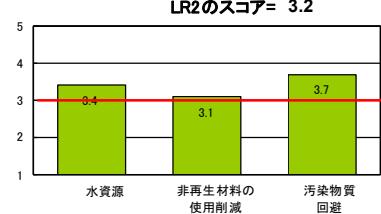
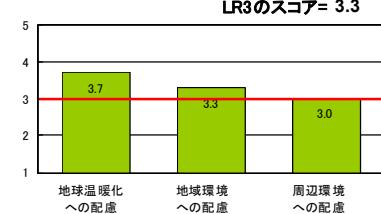
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	笠間発條(株)工場建築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県島田市旗指2921番の1の一部外11筆、道路敷、水路敷	構造	S造
用途地域	用途地域 無指定、防火地域 指定なし	平均居住人員	45 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年7月5日
敷地面積	7,053 m <sup>2</sup>	作成者	笠井正秀
建築面積	3,190 m <sup>2</sup>	確認日	2021年7月9日
延床面積	3,403 m <sup>2</sup>	確認者	笠井 均

<b>2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価(レーダーチャート)</b>																									
<p>BEE = 1.1 </p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★</p> 	 <p>30%: ★★★☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>建設</td> <td>修繕・更新・解体</td> <td>運用</td> <td>オンライン</td> <td>オフサイト</td> </tr> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>81%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③上記②以外のオンライン手法</td> <td>81%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④上記+ オフサイト手法</td> <td>81%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したもので</p>	建設	修繕・更新・解体	運用	オンライン	オフサイト	①参照値	100%				②建築物の取組み	81%				③上記②以外のオンライン手法	81%				④上記+ オフサイト手法	81%				 <p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>
建設	修繕・更新・解体	運用	オンライン	オフサイト																							
①参照値	100%																										
②建築物の取組み	81%																										
③上記②以外のオンライン手法	81%																										
④上記+ オフサイト手法	81%																										

<b>2-4 中項目の評価(バーチャート)</b>																		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <table border="1"> <tr> <td><b>Q1 室内環境</b></td> <td><b>Q2 サービス性能</b></td> <td><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></td> </tr> <tr> <td>Q1のスコア = 2.4</td> <td>Q2のスコア = 2.9</td> <td>Q3のスコア = 2.1</td> </tr> <tr> <td>  </td> <td>  </td> <td>  </td> </tr> </table> <p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <table border="1"> <tr> <td><b>LR1 エネルギー</b></td> <td><b>LR2 資源・マテリアル</b></td> <td><b>LR3 敷地外環境</b></td> </tr> <tr> <td>LR1のスコア = 4.2</td> <td>LR2のスコア = 3.2</td> <td>LR3のスコア = 3.3</td> </tr> <tr> <td>  </td> <td>  </td> <td>  </td> </tr> </table>	<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	Q1のスコア = 2.4	Q2のスコア = 2.9	Q3のスコア = 2.1				<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>	LR1のスコア = 4.2	LR2のスコア = 3.2	LR3のスコア = 3.3			
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>																
Q1のスコア = 2.4	Q2のスコア = 2.9	Q3のスコア = 2.1																
																		
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>																
LR1のスコア = 4.2	LR2のスコア = 3.2	LR3のスコア = 3.3																
																		

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>	<b>その他</b>	
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 利用者に配慮し、F★★★★★を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。	特になし。	
<b>Q1 室内環境</b> 照度が500lx以上1000lx未満。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務室の天井高2.9m以上。 リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし。
<b>LR1 エネルギー</b> [BEIm]=0.59。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LGS使用している。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	<b>LR3 敷地外環境</b> LCCO <sub>2</sub> 排出率:81%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい